

「議会のあり方を改めて議論します」 設置しました

議会のあり方を改めて議論します

議員定数や議員報酬について、今までも議論されてきた経緯がありますが、令和2年9月の選挙が無投票となったこともあり、改めて「議会のあり方を改めて議論する」として、特別委員会を設置して協議するべきとの意見。各議員は市民の代表であるから、全ての議員の意見を集約すべきであるとする意見。そもそも何のために議員定数や報酬を検討するのか、むしろ議員のあり方を考えるべきとの意見。過去の定数削減や周辺自治体、有識者の見解も研究しながら進めるべきであるとの意見など、さまざまな意見が出されました。

これを受けて議会運営委員会、設置目的や、調査研究事項を審議しました。特別委員会では、審議過程について、議会だよりも含めて広く周知をはかり、市民参加を実現していきたいと思っています。

委員会メンバー

委員長	宮田好夫
副委員長	川上博司
委員	倉野嗣雄
委員	三村靖行
委員	石部 誠
委員	石田芳生
委員	石井聡美
委員	伊藤泰樹

市民生活委員会 所管事務調査 マイナンバーカードの普及促進について

マイナンバーカードは平成28年から交付が始まっていますが、令和2年11月末現在の交付率は全国平均で23%、高梁市は19・63%に止まっています。国は令和4年度末でほぼ全国民に行き渡ること目標としており、本市での普及促進策が課題となっています。令和2年11月臨時議会では、地域経済対策とマイナンバーカード普及促進の観点から「まいにゃんばー商品券」を発行することとなりました。

この事業では、令和3年2月15日までに交付申請が確認できた方で1万人分商品券を送送できる予算を確保していますが、現時点での答弁がありました。

約6千人に発送済みです。今後の普及促進のために、受付の体制や、町内会や商業施設での出張申請等について質問がありました。

執行部からは、申請時交付時には原則として必ず窓口に来なければならぬ。国が示した目標達成に向けて取り組むが、人員や予算の確保が必要でハードルが高い。来年度に体制を整えてルール作りをしていくとの答弁がありました。



大学生が動いた「選挙に行こう ZE! プロジェクト」

吉備国際大学社会科学学部 内容を公表することで、政治に興味を持ってもらい選挙には高校生を含めた若者への投票につながればと、選挙で投票することは大切なことだとの思いから、

昨年秋の高梁市長選挙・市議員選挙の立候補者にと、アンケート結果は公表されたものの、若者に選挙に興味をもってもらい投票へ結びつけることはできませんでした。アンケート結果は現在もネット上に公表されていますので、ご一読ください。

「無投票になつて、中途半端に終わったことが残念」

「無投票になつて、中途半端に終わったことが残念」

学生との意見交換で新たな気づき

選挙後には議会広報公聴特別委員会が「選挙に行こう ZE! プロジェクト」のメンバーと意見交換を行いました。

またアンケート結果については「700人を超える方が閲覧してくれた」「高校生や大学生よりもお年寄りの方が多く閲覧された」「いろいろな議員（候補者）が政治に関心を持ってほしい」と語ってくれました。

また「無投票選挙は議員が楽をしているようにみえたが、今回の対話の中で市政に対するひたむきさを感した」「政治に無関心なのは若い方たちの責任だ」といった意見も出されました。

▼意見交換会の様子



立候補者に聞く「宝くじで一億円が当たったらどうする？」

「宝くじで一億円が当たったらどうする？」



「選挙に行こう ZE! プロジェクト」ホームページ <http://mirai-so.jp/>